



皆様の「快適な暮らし」のヒントに

すまい造りメール

第109号 2011年4月号

SINCE 2002.4.1.

発行日平成23年3月25日
発行元有限会社佐野工務店
〒237-0068
横須賀市追浜本町1-25
TEL 046(865)4010
FAX 046(865)6139
http://www.sano-k.net/
info@sano-k.net

これから

このたび発生しました「東北地方太平洋沖地震」におきまして、被害に遭われた皆様に謹んでお見舞い申し上げますとともに、被災地の一日も早い復興を心よりお祈り申し上げます。

住まいに携わる仕事をさせていただいている弊社といたしまして、「いま、何ができるのか」を冷静に判断しながら、これからも正確な情報をお届けすることを心掛けます。

今、私にできること。

**部屋の電灯はこまめに消そう。
デマに惑わされないようにしよう。
むやみに買い占めるのはやめよう。**

(民間の広告ネットワーク「AC JAPAN」のCMより抜粋)

首都圏の電力不足を補うため、京浜臨海部に集積する火力発電施設は、フル稼働に向けて動き出しました。京浜臨海部にある火力発電所は、液化天然ガス(LNG)が主要な燃料で、合計で最高約800万kwの出力能力があります。しかし、この出力能力だけでは、原子力発電が安定して供給していた電力を補うことができず、しばらくの間は、各企業や各家庭でのさらなる節電が欠かせない状況です。

いま、私にできること

家庭の電力需要は全体の約40%を占めています。大規模停電を防ぐ上でも今すぐにできる家庭での節電を心掛けましょう。

- ・ご飯を炊いたら保温したままにしない。(おにぎりなどにしておく)
- ・電力使用のピークとなる午後6時~7時の時間帯を避けて調理をする。
- ・エアコンや電気カーペットはなるべく使用しない。
- ・蛍光灯や電灯の傘をこまめに掃除をして、光を遮らないようにする。
- ・テレビ、ビデオデッキ、温水洗浄便座などの待機電力を切っておく。
- ・居間などで家族全員が一緒に過ごす時間を増やす。

(日本経済新聞「NIKKEIプラス1」より抜粋)

ハチドリの一としずく

この物語は、南アメリカの先住民に伝わるお話です。

**森が燃えていました
森の生きものたちは
われ先にと逃げていきました
でもクリキンディという名の
ハチドリだけは いったりきたり
くちばしで水のしずくを
一滴ずつ運んでは
火の上に落としていきます
動物たちがそれを見て
「そんなことをしていったい
何になるんだ」
といて笑います
クリキンディはこう答えました
「私は、私にできることを
しているだけ」**

「ハチドリの一としずく いま、私にできること」監修・辻信一(光文社)

(すまい造りメール第73号参照)

ざっくばらん 雑句芭蕉

日 青 あ
の 葉 ら
光 若 た
の 葉 ふ
の と

奥の細道
松尾芭蕉

「ああ、なんと尊いことだ。この山の青葉と若葉は、初夏の陽光ばかりか、日光山の威光に浴して、照り輝いている。」

4月1日(陽暦5月19日)に日光山を参拝した芭蕉は山そのものが御神体であった靈威あらたかな日光山の荘厳な自然美に感動し、この句を詠みました。



クイズ 問 呟 只 和

「おっぱま再発見」
ここはどこでしょうか?



(ヒント)
海軍航空隊の正面です。
(参考資料「おっぱまタウン」)



(答え)

昭和10年頃の夏島付近です。「東京ファイン前」のバス停付近と思われます。

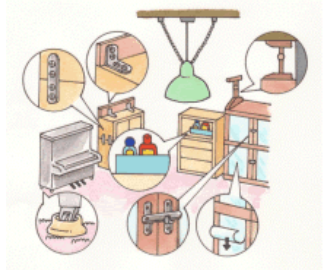
家具類の転倒・落下防止をしておこう

- ・家具やテレビ、パソコンなどを固定し、転倒や落下防止措置をしておく。
- ・けがの防止や避難に支障のないように家具を配置しておく。



けがの防止対策をしておこう

- ・避難に備えてスリッパやスニーカーなどを準備しておく。
- ・停電に備えて懐中電灯をすぐに使える場所に置いておく。
- ・食器棚や窓ガラスなどには、ガラス飛散防止措置をしておく。



家屋や塀の強度を確認しておこう

- ・家屋の耐震診断を受け、必要な補強をしておく。
- ・ブロックやコンクリートなどの塀は、倒れないように補強しておく。

消化の備えをしておこう

- ・小さな揺れの時には、火の始末をする習慣をつけておく。
- ・火災の発生に備えて消火器の準備や風呂の水のくみ置きをしておく。



火災発生の防止対策をしておこう

- ・普段使用しない電気器具は、差込プラグをコンセントから抜いておく。
- ・電気やガスに起因する火災発生防止のため感震ブレーカー、感震コンセントなどの防災機器を設置しておく。

非常用品を備えておこう

- ・非常用品は、置く場所を決めて準備しておく。
＜飲料水・携帯ラジオ・衣類・履物・食料(3日間程度)・マッチ・貴重品・懐中電灯・救急セット・筆記用具・雨具(防寒)・チリ紙など＞
- ・車載ジャッキやカーラジオなど、身の回りにあるものの活用を考えておく。

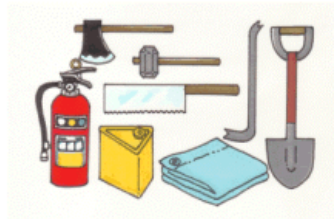
家族で話し合っておこう

- ・地震が発生した時の出火防止や初期消火など、家族の役割分担を決めておく。
- ・家族が離れ離れになった場合の安否確認の方法や集合場所などを決めておく。
- ・家族で避難場所や避難経路を確認しておく。
- ・普段の付き合いを大切にするなど、隣近所との協力体制を話し合っておく。



防災環境を把握しておこう

- ・地域の防災マップに加えて、我が家の防災マップを作っておく。
- ・自分の住む地域の地域危険度を確認しておく。



過去の地震の教訓を学んでおこう

- ・消防署などが実施する講習会や座談会に参加し、過去の地震の教訓を学んでおく。
- ・新聞、テレビ、ラジオやインターネットなどからの防災の知識を身につけておく。

知識・技術を身につけておこう

- ・日頃から防災訓練に参加して、身体防護、出火防止、初期消火、救出、応急救護、通報連絡、避難要領などを身につけておく。
(「東京消防庁」ホームページより抜粋)